

わが社の

アジア戦略

リーダー育成と人材交流を促進

HRインスティテュート【後】

HR インスティテュート（HRI）は2010年、人材育成やコンサルティングを行う「HRI ベトナム」をダナン市に設立。学校建設プロジェクトを通じて知り合った人々から、現地でのビジネスを勧められたもので、地元からの強いニーズに応じた。日本人駐在員向けにはマネジメントや異文化理解、現地スタッフには5Sやコミュニケーションのトレーニングなどを行うほか、進出支援や許認可手続きなども手がける。現在の顧客はハノイやホーチミンの日系企業が多いが、人材育成を通じ地元・中部へ貢献していく考えだ。

最近の取り組みで注目されるのが、日本企業の若手スタッフに対する現地トレーニングだ。グローバル化に直面する日本企業にとって、海外でタフに交渉をしたり成果を残せる社員の育成は喫緊の課題。将来的に海外事業を担える人材を育てるため、日本からダナンへの研修ツアーを用意した。研修は約1週間。ダナン大学とも連携しながら、現地で実際に製品開発から販売までを体験する内容で、自分で仕事を作り出すことや、多様な価値観を持つ人たちと協働することなどを通じて創造力やグローバル感覚を磨く。このほか、2カ月程度をインターンとして実習する滞在型の研修も設けている。

このほか、世界遺産の街ホイアンを拠点に、主に観光サービスの人材育成を目指して日本語教育を行う。同地はリゾート地として

も有名で、欧米からは1カ月以上の長期滞在者が訪れるが、日本人にとってはまだまだなじみが薄い。世界的な有名ホテルでも日本語スタッフがほとんどいない状況で、日本語人材を育てることで中部の魅力を伝えていく。地域の一部の小中学校でも日本語教育を始めており、就職や留学なども通して両国を橋渡しする人材を期待する。

「誰とやるかが重要」

HRIの三坂氏はベトナム事業について、これまでの社会貢献とビジネスの両立をさらに発展させていきたいと語る。三坂氏が共同代表を務める現地の体制については、組織をマネジメントできるリーダーを育成して、ローカルによる自律的な運営を目指したいと言う。自社内に限らず、管理能力のあるリーダーの育成はベトナム全体の課題でもあり、現在のような外資に依存した発展モデルを改めていくためにも欠かせない。また、企業活動や観光でさらに人材交流を深めていく考えで、特にベトナム人の日本への誘致を増やしていきたいとしている。

ベトナム事業は、いずれもHRIの考え方に共感して集まってきた人々のネットワークが発展したもの。現地当局者だけでなく、日本企業を引退したシニアや日本語講師など、現地事業をサポートする人々は理念や価値観を共有する。三坂氏は、「新興国では一定期間は利益を度外視したマーケティングも有効。何をやるかも大事だが、誰とやるかも非常に重要」と感じている。企業理念や価値観を前面に出したHRIのモデルは、企業の海外進出の参考となるだろう。（了、M）



日本人の若手に対する現地トレーニング